

令和7(2025)年度とちぎっ子学習状況調査の結果(概要)について

栃木県教育委員会事務局義務教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的 ※1

本調査の実施により本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

(2) 調査の対象

県内の公立学校に在籍する以下の学年の全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第4・5学年、義務教育学校第4・5学年、特別支援学校小学部第4・5学年

イ 中学校調査

中学校第2学年、義務教育学校第8学年、県立中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(3) 調査の内容

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査

- ・ 小学校調査は、国語・算数・理科の3教科とし、中学校調査は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科とする。
- ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までの学習内容とする。
- ・ 出題内容は、学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容とする。

(イ) 質問調査

- ・ 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関する質問調査（以下「児童生徒質問調査」という）を、ICT端末を用いてオンラインによる回答方式にて実施

イ 学校に対する調査

- ・ 学校における指導に関する取組や学習環境等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という）を、ICT端末を用いてオンラインによる回答方式にて実施

(4) 調査実施日

教科に関する調査：令和7（2025）年4月17日（木）

児童生徒質問調査：令和7（2025）年4月18日（金）～5月1日（木）県から指定された実施日

学校質問調査：令和7（2025）年4月18日（金）～5月1日（木）各学校の任意の実施日

※1 県版調査であるとちぎっ子学習状況調査の結果については、次のような活用方法を提案している。

- (1) 県の平均と市町や学校、児童生徒一人一人の結果を比較し、それぞれの現状を確認する。
- (2) 一つ一つの問題に着目し、誤答の傾向を把握することで、児童生徒のつまずきを確認し、今後の授業改善につなげる。
- (3) 児童生徒質問調査の結果を確認することで、児童生徒の家庭における過ごし方や、学校における学習への取り組み状況を把握する。

(5) 調査を実施した児童生徒数・学校数

学 年	児童生徒数	実施校数	(内訳)
小学校第4学年	14,563 人	333 校	小学校・義務教育学校 332 校 特別支援学校小学部 1 校
小学校第5学年	14,998 人		
中学校第2学年	14,327 人	155 校	中学校・義務教育学校 150 校 特別支援学校中学部 5 校
全 体	43,888 人	488 校	

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果

平均正答率

(単位：%)

学年	教科	設問数	教科総合(県)	知識・技能	思考・判断・表現
小学校 第4学年	国語	26	68.3	76.5	63.1
	算数	26	55.4	56.2	53.8
	理科	26	68.9	70.9	67.1
小学校 第5学年	国語	26	65.6	65.9	65.5
	算数	24	64.6	62.1	68.7
	理科	28	61.6	65.3	57.4
中学校 第2学年	国語	26	60.6	60.1	60.8
	社会	27	50.3	48.2	54.4
	数学	25	45.2	52.5	34.1
	理科	29	46.8	47.6	45.6
	英語	28	48.2	50.2	42.1

○ 多くの教科において、知識・技能に比べ、思考・判断・表現の方が、平均正答率が低い傾向にある。

(2) 児童生徒質問調査の結果 (質問項目数：小学校4・5年 94項目、中学校2年 113項目)

ア 教科の学習について

- ①「次の教科の授業の内容はよく分かりますか。」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合

(単位：%)

学年	年度	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校 第4学年	R7	88.9	86.4	88.5	95.6	
	R6	90.2	86.6	88.7	95.8	
	R5	88.4	83.8	87.7	92.9	
小学校 第5学年	R7	91.3	86.1	87.5	95.3	
	R6	90.7	86.2	87.2	94.8	
	R5	90.5	86.0	86.2	92.5	
中学校 第2学年	R7	87.8	82.4	82.2	86.6	77.2
	R6	87.9	80.6	85.1	85.8	76.1
	R5	88.1	78.4	75.0	79.9	69.7

- ②「次の教科の学習は好きですか。」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合

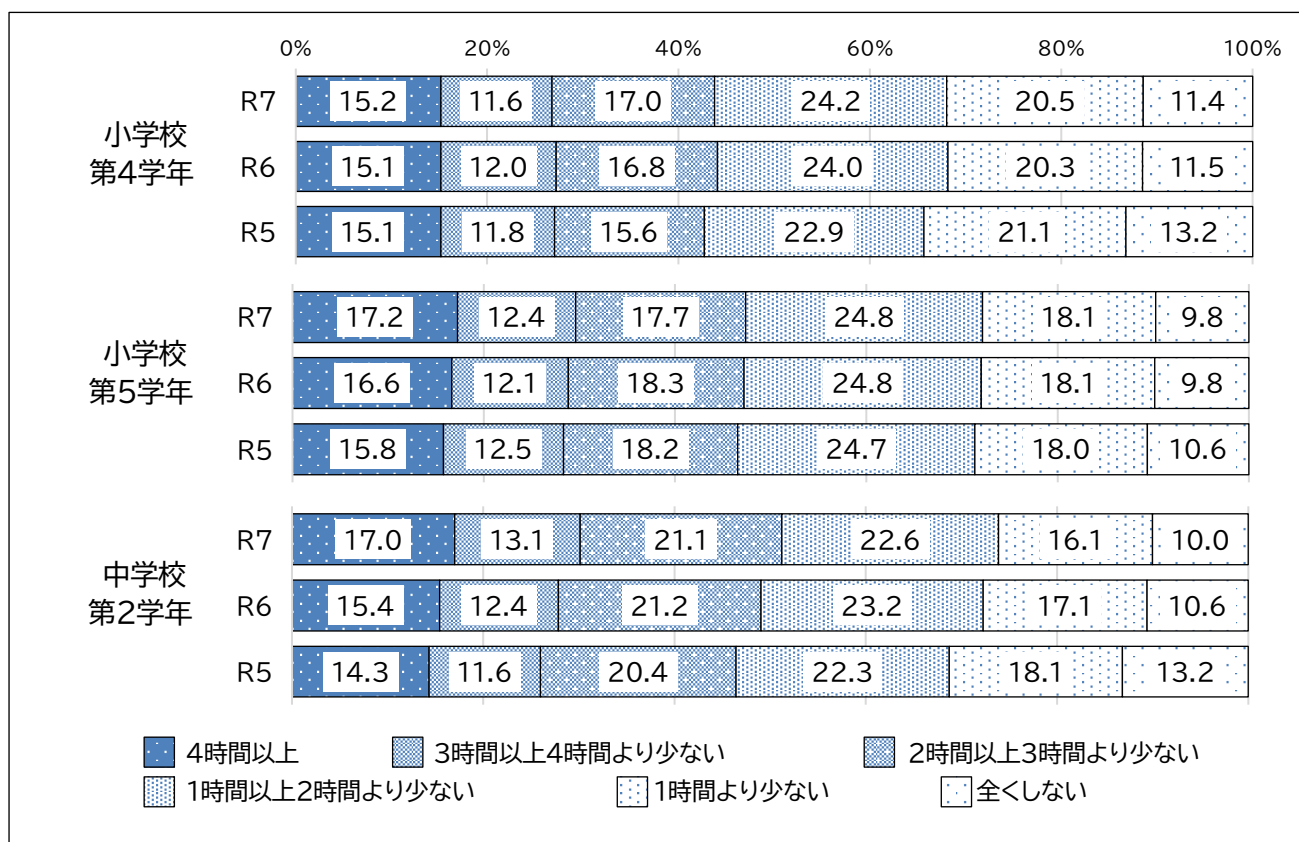
(単位：％)

学年	年度	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校 第4学年	R7	70.0	67.4	71.1	90.6	
	R6	71.8	68.3	70.9	91.0	
	R5	67.4	61.5	71.2	87.5	
小学校 第5学年	R7	69.3	63.7	64.8	86.4	
	R6	68.1	64.9	64.7	86.8	
	R5	64.0	60.8	62.7	83.8	
中学校 第2学年	R7	64.6	64.4	58.6	74.0	60.7
	R6	65.7	63.1	62.4	72.1	59.6
	R5	64.7	62.3	53.3	67.6	53.6

- 「よく分かりますか」の質問に比べ、「好きですか」の質問に対して「はい」または「どちらかといえば、はい」と回答（以下、肯定的回答という）した割合は、相対的に低く、その差は学年が上がるにつれて顕著になる傾向にある。

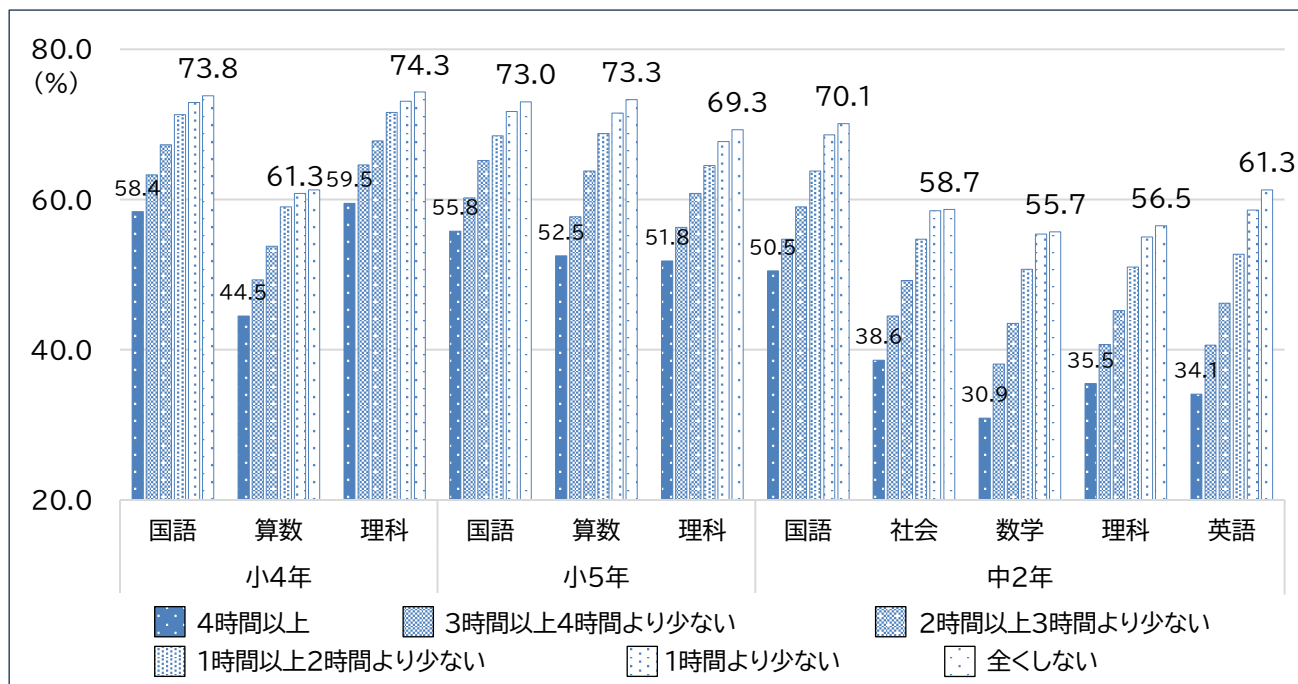
イ 家庭での生活について

「ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」の質問に対して回答した児童生徒の割合



- どの学年においても、ゲームをする時間が「4時間以上」と回答した児童生徒の割合は、増加傾向にある。特に、中学校第2学年で「2時間以上」と回答した生徒の割合の増加が顕著である。

※ 「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」の質問に対する回答別正答率



○ どの学年、教科においても、「ゲームをする時間」が「1時間より少ない」あるいは「全くしない」と回答した児童生徒の方が、ゲームをしている時間が長い児童生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

そして、その傾向は、学年が上がるにつれてより顕著である。

ウ 家庭学習、学び方について

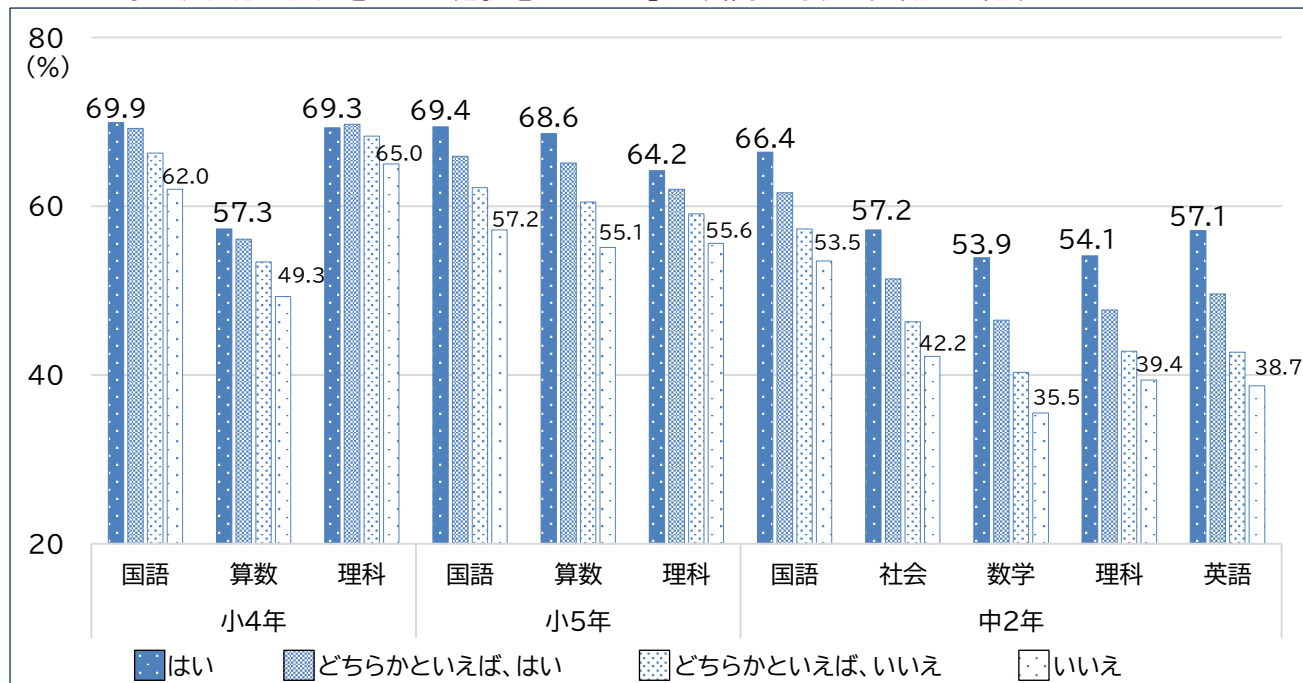
「次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合 (単位：%)

		家庭学習			学び方		
学年	年度	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	家で、学校の授業の復習をしている	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる	グループなどの話し合いに自分から進んで参加している	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
小学校 第4学年	R7	74.3	64.9	66.3	74.6	77.1	75.5
	R6	76.0	68.0	68.6	75.8	78.4	77.5
	R5	70.4	63.6	66.4	73.8	76.3	77.5
小学校 第5学年	R7	75.0	66.7	64.5	73.9	78.0	78.4
	R6	75.3	67.8	65.0	74.0	77.2	78.3
	R5	71.6	65.3	64.8	75.1	76.3	79.8
中学校 第2学年	R7	66.1	70.9	62.6	62.1	77.9	87.5
	R6	67.6	72.2	63.8	62.7	78.0	87.2
	R5	63.6	70.6	65.2	69.6	77.4	86.4

○ 家庭学習について、今年度の肯定的回答の割合は、昨年度に比べ全体的に低下している。また、中学校においては、「テストで間違えた問題について勉強している」の質問に対する肯定的回答の割合が、この3年間で低下傾向にある。

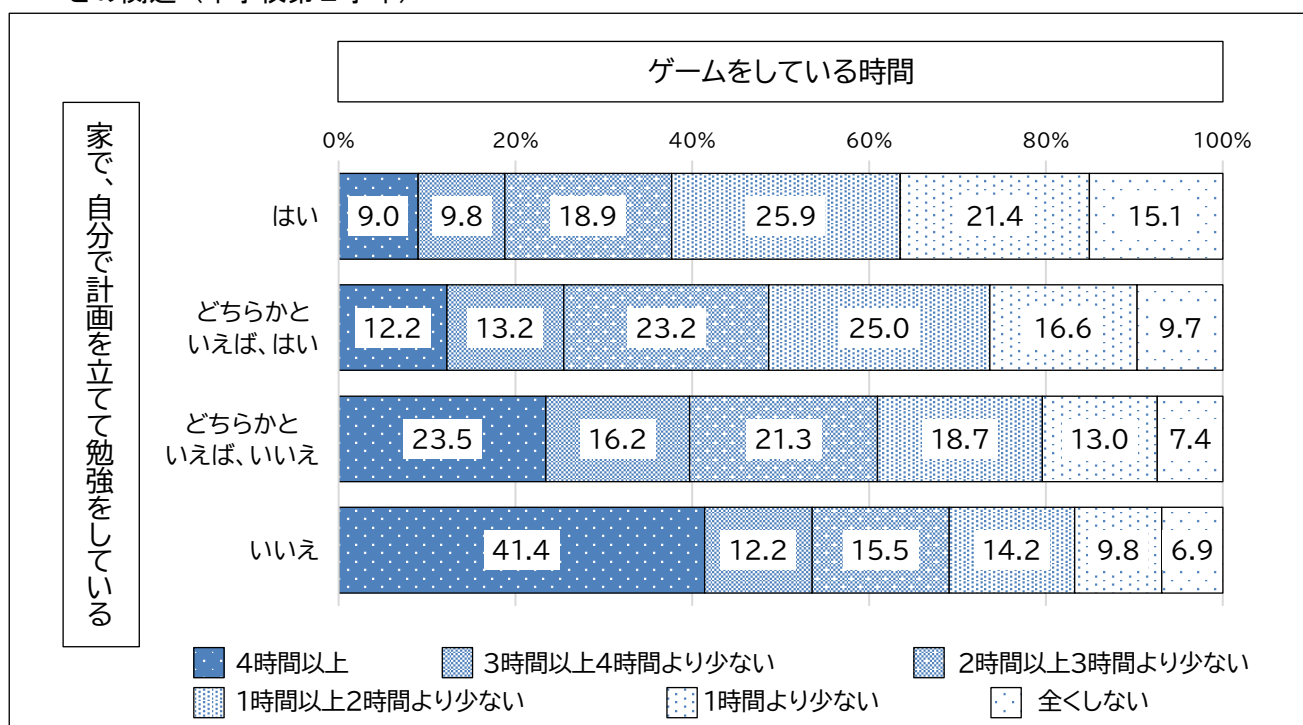
学び方については、「自分から進んで取り組んでいる」の質問に対する肯定的回答の割合は、中学校で低下する傾向にある。一方「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対しては、中学校で肯定的回答の割合が高い。

※ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する回答別正答率



○ どの学年、教科においても、「はい」と回答した児童生徒の方が、「いいえ」と回答した児童生徒よりも各教科の平均正答率が高い傾向が見られ、その傾向は、学年が上がるにつれてより顕著である。

※ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する回答結果と「ゲームをしている時間」との関連（中学校第2学年）



○ 「計画を立てて勉強している」の質問に対して「はい」と回答している生徒のうち、15.1%の生徒が「ゲームをしている時間」の質問に対し、「全くしない」と回答し、21.4%の生徒がゲームをしている時間が「1時間より少ない」と回答している。一方、「いいえ」と回答している生徒のうち、41.4%の生徒がゲームをしている時間が、「4時間以上」と回答している。

このことから、「自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の方が、ゲームをしている時間が短いことが分かり、この傾向は、小学校第4学年及び小学校第5学年においても同様である。

エ 学ぶ意欲、自己肯定感について

「次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。」の質問に対し、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した児童生徒の割合

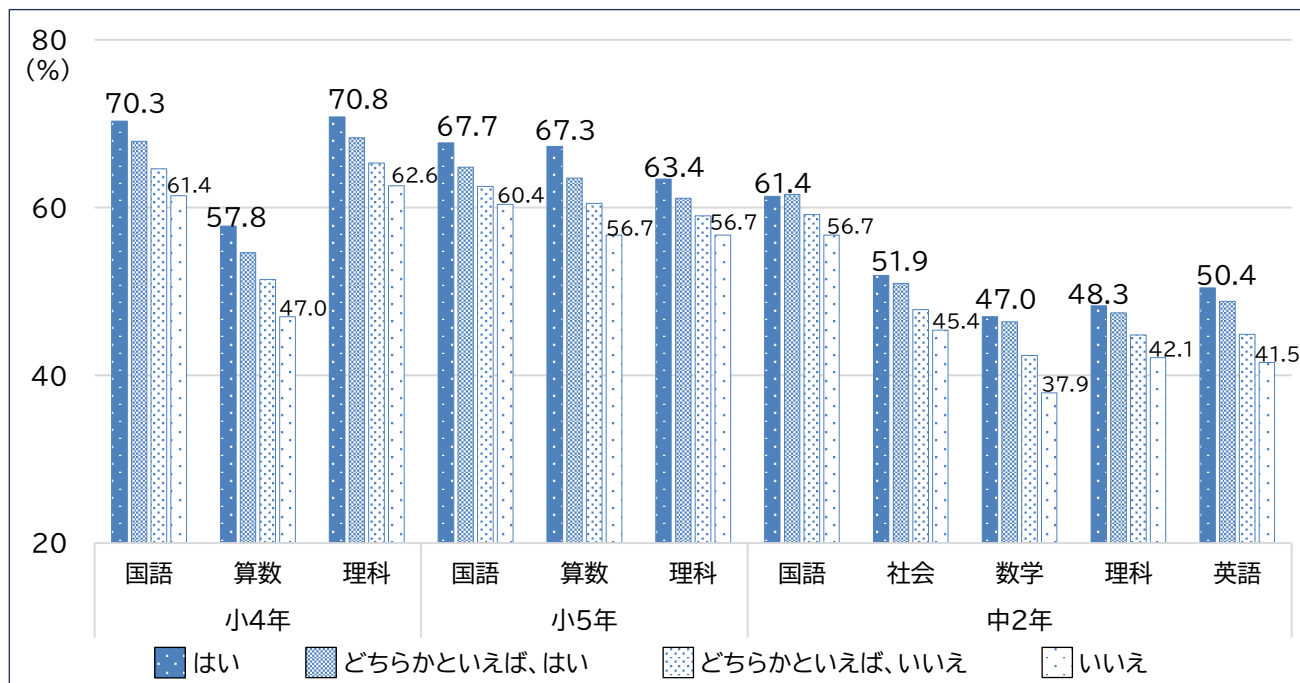
(単位：％)

		学ぶ意欲			自己肯定感		
学年	年度	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある	難しい問題にであうと、よりやる気が出る	できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている	自分には、よいところがあると思う	家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる	先生は学習のことについてほめてくれる
小学校 第4学年	R7	83.5	57.4	83.2	84.6	87.7	88.9
	R6	84.2	59.0	83.2	83.8	86.9	88.3
	R5	81.6	59.1	83.2	80.8	84.1	85.4
小学校 第5学年	R7	81.6	52.3	81.8	83.2	87.6	89.2
	R6	81.7	52.2	82.8	82.1	87.3	89.3
	R5	81.6	53.9	84.8	79.7	85.7	87.2
中学校 第2学年	R7	73.3	37.2	75.1	80.3	80.8	84.0
	R6	72.3	38.5	75.1	78.9	79.4	82.4
	R5	74.6	39.0	78.9	75.8	78.1	79.3

○ 学ぶ意欲について、「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問に対する回答は、他の質問よりも肯定的回答の割合が相対的に低い。

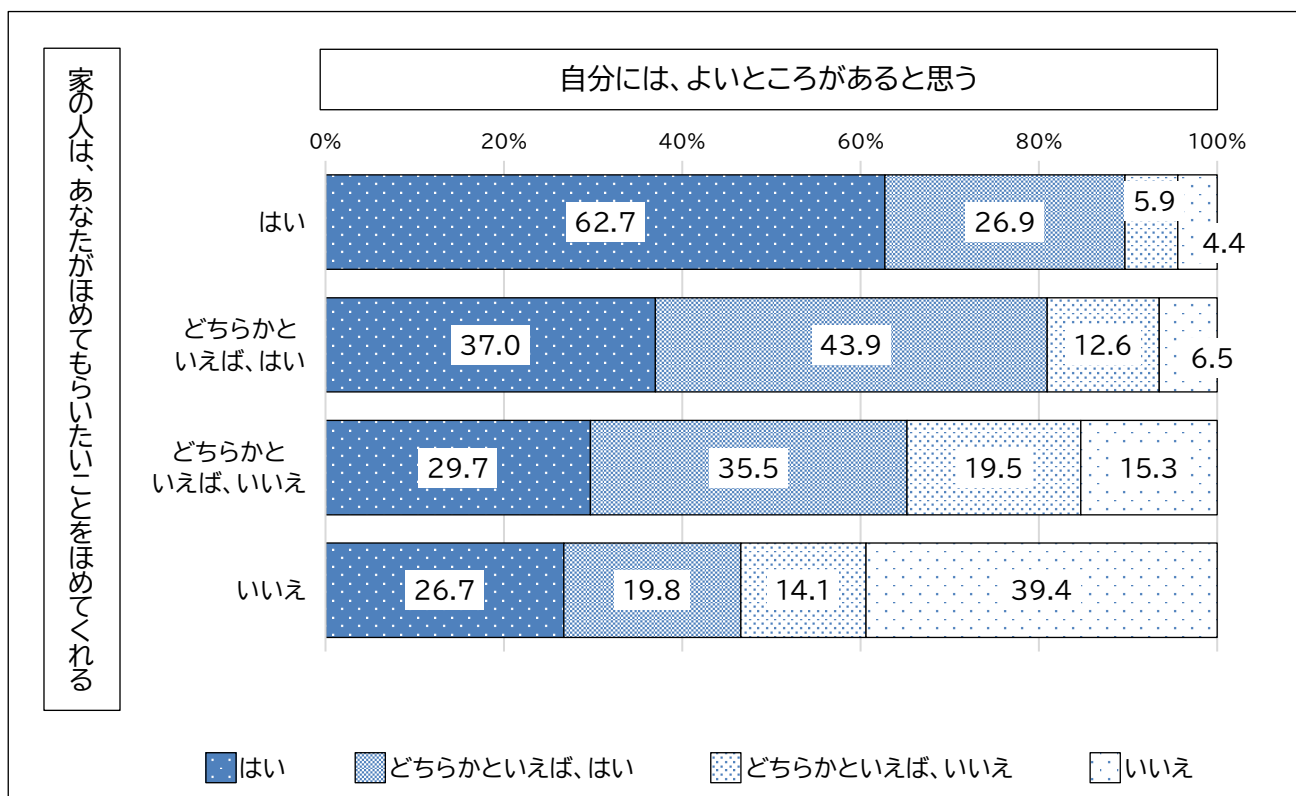
自己肯定感に関わる質問については、この3年間で肯定的回答の割合は確実に高くなっている。

※ 「自分には、よいところがあると思う」の質問に対する回答別正答率



○ どの学年、教科においても、上記の質問に対して「はい」と回答した児童生徒の方が、「いいえ」と回答した児童生徒よりも各教科の平均正答率が高い傾向にある。

※ 「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の質問に対する回答結果と「自分には、よいところがあると思う」の質問に対する回答結果との関連（小学校第5学年）



○ 「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の質問に対して、「はい」と回答している児童のうち、62.7%の児童が、「自分には、よいところがあると思う」の質問に対しても「はい」と回答している。

このことから、家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれると思っている児童ほど、自分にはよいところがあると感じている傾向にあることが分かり、小学校第4学年や中学校第2学年においても同様の傾向が見られる。